

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山田 恵	職名	助教	学位	学士 (教養)
----	------	----	----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
助産ケア 母子の愛着 (アタッチメント) 女性の健康支援	母子関係 アタッチメント 感性 寄り添う支援 女性の健康 プレコンセプションケア

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産褥婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。 ・思春期世代に対し、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

担当授業科目
<p><助産別科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合看護学 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅲ (産褥期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ (健康教育演習) (通年) ・女性の健康支援論 (前期) ・助産学基礎実習 (前期) ・助産学実習Ⅱ (正常逸脱) (後期) <p><看護学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護学演習 (前期) ・母性看護学実習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 総合看護学 】</p> <p>オール遠隔授業であり、授業開始後間もない時期であったが、体験学習や共同学習を取り入れ、学生の自発性を高めるよう工夫した。特に時間内で学習したこと、理解した内容を言語化させ、「何となくわかった」から「このように理解した」とそれぞれの学びの内容を確認し、次回の講義に反映させた。</p>
<p>授業科目名【 女性の健康支援論 】</p> <p>オール遠隔授業であり、授業開始後間もない時期だったため、事前課題 (調べ学習) を学生間で共有し、意見交換できるような場の設定を行った。また、教科書内の内容だけでなく、最近の動向や新たな知見、助産ケアの対象者の実像を具体的に提示して、社会が求める助産師の役割について考える機会とした。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) Ⅱ (分娩期) Ⅲ (産褥期) Ⅳ (新生児・乳児期) 】</p> <p>遠隔と対面のハイブリッド形式の授業形態であったため、個々の学習の取り組みと理解度を適宜評価し、指導した。知識を統合させケア実践につながるよう、シミュレーション教育を行った。演習計画はできるだけ詳細に立案し、公平性が保てるよう時間調整した。また、学生全体で検討する機会を設け、意見交換できるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅶ (助産過程演習) 】</p> <p>母性看護過程展開の経験の有無や、理解度を把握した上で個別対応した。講義時間外でもできるだけ学生対応に努め、学習が円滑に進むよう支援した。</p>

<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習） 】</p> <p>思春期の健康教育演習を担当した。カリキュラム改正とこれからの助産師に求められる内容を意識し、「プレコンセプトケア」の概念を中心に講義・演習内容を組み立てた。今年度は臨地実習等の期間が短く、机上で学習した助産実践能力を外部で発揮する機会が限られていた。そのため、感染拡大のため前年度は中止となったが、今年度は感染拡大状況に応じて「思春期健康教室」を遠隔でも開催できるよう中高に依頼し、実践することで学生の学修の達成感が得られるよう調整した。</p> <p>企画立案から運営まで学生主体で行えるよう計画した。指導内容に関して中高の教育と齟齬がないよう指導案や教材の確認を行い、教育の質の保障をした。</p>
<p>授業科目名【 助産学実習（基礎）（正常Ⅰ）（正常逸脱Ⅱ）（管理） 】</p> <p>助産学基礎実習ではすべて学内実習となったため、学内版実習計画を立案した。臨地実習同様の経験となるよう時間設定を行った。思考しながら実践できるよう場面設定を行い、経時的に評価し、翌日の実習へとつながるようにした。また常に実習目標を意識した指導を行い、到達できるようにした。</p> <p>助産学実習Ⅰでは、2か所の県外実習（10週間）を担当した。コロナ感染拡大中の実習施設では、事前の受け入れ要件のすり合わせや実習内容の調整を行い、臨地実習が可能となるよう努めた。</p> <p>学生に対しては常に連絡相談態勢をとり、実習の支援を行った。毎日、学生の心身の体調把握に努め、必要時指導者へ連絡し過度な負担とならないよう調整を図った。学生の急変の際は訪問し付き添い、保護者・指導者への対応を行った。記録指導はメール上（パスワードかけ）で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう配慮した。</p> <p>助産学実習Ⅱ（病棟）では、施設の実習内容制限（病棟滞在時間2時間、非会話等）を遵守しながらも、効果的な学びができるよう、学生の計画を指導者に提示し、可能な限り指導者に実践していただけるよう調整した。また、振り返りの時間を確保し、間接的実践を直接的な実践に変換し、評価できるよう指導した。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学演習 】</p> <p>看護過程演習では24名の学生を担当した。8名1グループのリモート演習では、学生間の学び合いの場を設け、平等に質問や個別に指導ができるよう配慮した。国家試験対策につながるよう教科書を活用した学習を組み込み、知識の獲得を図った。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学実習 】</p> <p>予定されていた実習施設ごとに、病院ホームページ等を活用したオリエンテーション資料を作成・実施し、実習病棟の様子が具体的にイメージしやすくなるよう工夫した。母性看護に携わる看護者の実践場面、特に対象との接し方などについて、病院が配信している you tube 動画（新人助産師の1日）を視聴させるなどして、臨床で実習する際の看護学生としての態度や心構え等を考える機会をもたせた上で学内実習を開始した。学内実習では目標達成に必要な実践が行えるよう、臨地実習と同様に、作成した疑似電子カルテや申し送りから情報収集させるなど臨地実習同様の形態をとり、看護過程を展開させた。学生全員が平等に実践できる機会も設けた。実習記録の指導は臨地実習同様、毎日個別対応の時間を設けた。また、遠隔であっても学生からの質問等に関して、適宜対応できるよう時間調整を行った。</p>
<p>授業科目名【 ウイメンズヘルス看護論 】</p> <p>3名の学生を担当した。遠隔講義であったため、文献検索等がスムーズに行えるよう支援した。また、ウイメンズヘルケアに興味関心を持ち、自主的に学習が進められるよう個々の進捗に合わせて課題提示を行い、学習意欲の向上を図った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<別科学生募集他>

- ・2020年度のオープンキャンパス企画・運営担当
- ・助産別科ブログ担当

<別科業務>

- ・実習コーディネーター (補佐)
- ・助産学生3名のアドバイザー担当
- ・国家試験対策 (補佐)
- ・クラス担当

<学生支援>

- ・看護学科教員や保健室職員、事務職員の要請に応じて、看護学科学生及び職員等の健康相談を行った。関連する病院の紹介や連絡調整を図った。